

Q&A

家での過ごし方を考えてみよう



「子育て」

●どうもうちのこどもの場合、育児書どおりにいきません。やはりわたしのやりかたがよくないのですか？

基本的に、どのこどもも育児書どおりに育つわけではありません。こどもの仕方があると思ってよいでしょう。特に、発達の違いやつまづきがあると、おしごとが多くあります。育児書にはない「○○ちゃんにあった子育ての仕方」を

こどもの状態への気づき

こどもの発達がつまづく原因はおかあさんのせい？

「書」について考えてみよう～

「発達」

その1 生活リズム

子育ての悩み「生活リズム」

こどもの状態への気づき

お子さんのどんなところが心配？

「生活リズム」

- 1) 早く寝かそう、いつも10時に寝る早めてし
 - 2) お昼寝は2時
 - 3) いちいちやっ
- 大人がうまくリズム
朝なら「起床→トイレ」
夜なら「食事→テレビ」
例えば、「外出から

一人遊びが多く、マイペース



しかし、よほどのことがない限り、この心配は「こどもの発達」や「生活リズムの違い」が原因で起こる。

その2 食事

「食事」

- ・ 食事の量が食べ
- ・ 調理の仕方(刻

がある。ない「育て方が下手」「ことばが足りていないなどと、(ママさんごめんね)」

「発達」

されている。(前向きだと教えていなくても、できるように頑張りましたか？実は「ことば」や「対人関係」の発達も同じ。)とするのがいい。|意不得意など普通。

図6 「アーチル」の画面の例

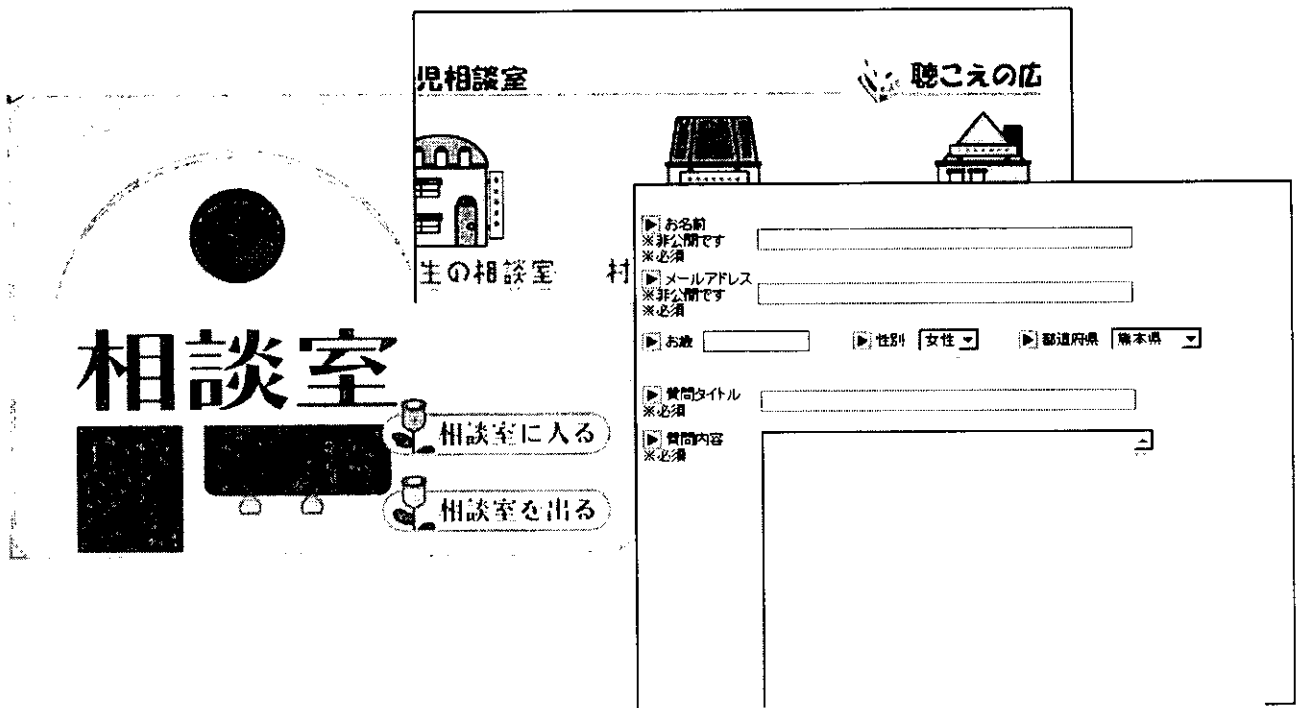


図7 「相談室」の画面の例

コミュニケーションサポート機能を活用してもらうため、パーソナルコンピュータより普及率が高く機動力のある携帯端末用のコンテンツを「i-mode」に用意した。「図書館」は MOC の講義で使う教科書や参考書を探す場所という位置づけで、講義や相談を担当している専門家の著書、推薦書の情報を提供する機能を有する。そのほか「市庁舎」には MOC の案内やサイトマップが、「美術館」は子どもたちの芸術活動を紹介・支援するコンテンツがおかれている。地域の育児支援ネットワークといった地域特有の情報を集積・提供する機能も今後付加していく予定である。

5. まとめ—多層ネットワークによる育児支援の試み—

全国の各地域に整備されつつある子育て支援センター、活動が奨励されている地域の育児サークル・子育て支援サークル、予算削減の影響もあって統合・合併の危機にある保健所と福祉事務所、そして電子ネットワーク上でますます増加しつつある育児支援サイトのいずれも、それ単独では育児上の様々なニーズ全てに対応できるものではない。我々が構築しているオンラインコミュニティ「MOC タウン」も同様である。子育て支援センターや地域の子育て支援サークルのようなヒューマンネットワークによる支援、MOC タウンのような電子ネットワークによる支援のどちらもそれぞれ長所と短所をもっている。経済、母子保健体制、時間、職、人手、場所、情報、教育・啓蒙、コミュニケーション、相談体制という支援要素に関する整備を拡充し、より多くのニーズに対応するためには、各ネットワーク間に協力・協調体制、複数のネットワークを用いた多層ネットワークによる支援が必要であると考え（図 8）。

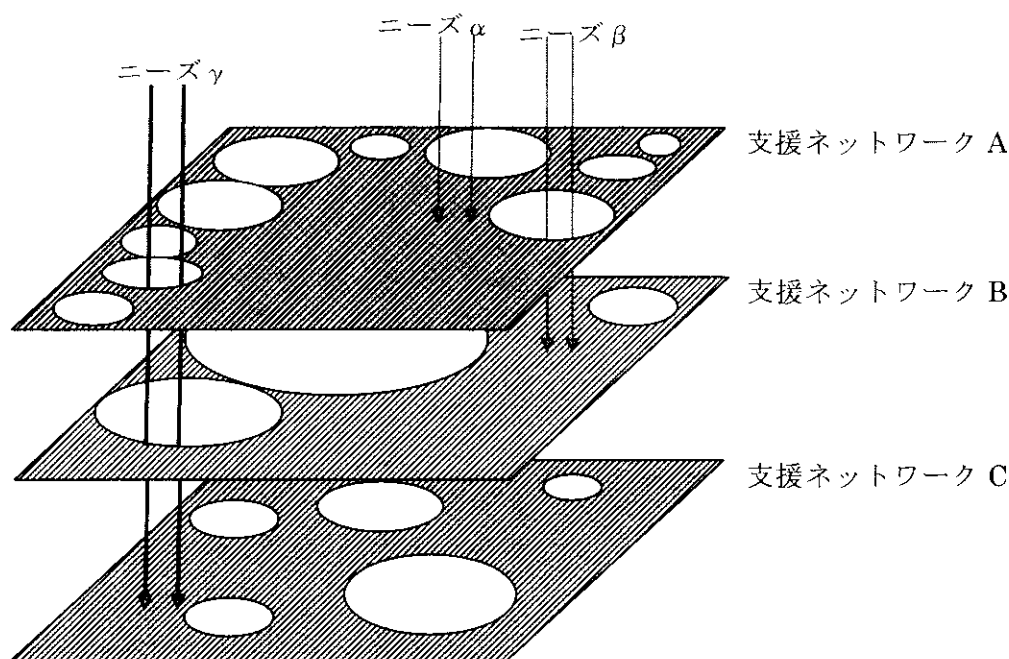


図 8 多層ネットワークによる支援のイメージ

本研究は以下の協力をうけて実施された。記して感謝する。末永カツ子・薦森武夫（仙台市発達相談支援センター）、菅井邦明・川住隆一・水口崇・松崎丈（東北大学大学院教育学研究科）、村上由則（宮城教育大学教育学部）、樋口祐紀（東北大学大学院教育情報学研究部）、金子弘行（Dik）。

文献

- 川上善朗，川浦康至，池田謙一，古川良治（1993）電子ネットワーキングの社会心理—コンピュータ・コミュニケーションへのパスポート。誠信書房，東京
- 菅井邦明（2001）障害児・不登校児オンラインカウンセリング・データベースシステム。文部科学省（旧科学技術庁）総合研究。広域高速ネットワークを利用した生活工学アプリケーションの調査研究。平成11年～12年度研究成果報告書
- 渡部信一，熊井正之，曾根秀昭，比屋根一雄，飯尾淳，菅井邦明（2002）ネットワークを利用した不登校児・障害児支援システムの開発。日本教育工学雑誌，26，11-20
- Werry, C. and Mowbray, M. (2001) *Online Communities: Commerce, Community Action and the Virtual University*. Prentice Hall, (池田健一監訳（2002）オンライン・コミュニティ—eコマース、教育オンライン、非営利オンライン活動の最先端レポート。ピアソン・エデュケーション，東京)

研究発表

- 渡部信一，熊井正之，曾根秀昭，比屋根一雄，飯尾淳，菅井邦明（2002）ネットワークを利用した不登校児・障害児支援システムの開発。日本教育工学雑誌，26，11-20
- 熊井正之，渡部信一，三石大（2003）育児支援のためのオンラインコミュニティ構築の試み。教育情報学研究，1，印刷中

厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
「インターネット及び人的ネットワークを活用した育児不安軽減に関する研究」
分担研究報告書

相談機関と連携した育児に対する支援情報の検討
－電子ネットワークを用いた情報提供システムの開発－

研究協力者 水口 崇（東北大学）
分担研究者 末永カツ子（仙台市発達相談支援センター）
研究協力者 蔦森武夫（仙台市発達相談支援センター）

I. 問題と目的

育児は、新たな世代の担い手を育む行為である。従って、人間の営みの中で欠かすことのできない重要な意義を持つ。本論は、地域の相談機関と連携し、電子ネットワークを媒介とする情報提供が、育児支援に対し有効活用される可能性を論じたものである。

育児を支える集団には、家族と地域共同体が挙げられる（矢野，1991）。我々は家族という単位を形成し、これを核として育児を行う。さらに家族は、地域共同体という単位の中に形成される。そして、地域共同体の援助を得ながら育児が行なわれる。従って育児は、家族と地域共同体という二重の集団に取り囲まれ、それぞれの援助を受けながらなされるのである。

我が国では、古くから育児に対し地域共同体の果たす役割が強調されてきた（早川，1981）。つまり、父母や祖父母に代表される家族の構成員のみでなく、家族を取り巻く地域共同体の構成員が、積極的に同じ地域の子どもに対する育児に関与していた。このような育児の慣習は、育児に関する知識の世代間の伝承を可能にしてきた。さらに地域共同体の積極的な参加は、同世代内での育児に関する情報のやり取りや地域の構成員による支援をもたらした。そして、伝承された知識と入手された情報や支援は、育児を行う際に有効利用されてきた。

さて、育児に関する慣習は、国や地域によって異なる。さらにそれは、時代の変化に伴って変容する。我が国における核家族化や少子化、都市化や共稼ぎ家庭の増加は、従来の家族という単位を縮小化させた（小此木，1986）。同時にこの変化は、家族と地域共同体の結びつきを脆弱にした。さらに地域共同体自体も、その結束力を拡散してきている。これらの変化に伴い、育児に関する伝統的な慣習に従来通りの機能は期待できなくなった。その結果、育児に関する知識の伝承が困難になり、地域共同体からの情報や支援が得られにくくなっているのである。

周知の通り、育児は様々に支援を得なければ遂行しにくい、大変な重労働でもある。このため、周囲から適切な情報や支援が得られない場合、甚大な不安やストレスが生じ育児ノイローゼや精神障害すら起こしうる（佐々木，1982）。勿論、家族や地域共同体以外からも一定程度の知識や情報の入手は可能である。何故なら、育児書として刊行されている一般論を述べた書籍等によって、育児に関する知識や情報は提供されているからである。しかしながら、それにも関わらず育児上の問題は、簡単には払拭されにくい。この理由の一つには、育児上の問題が、知識や情報の提供ではなく、具体的な介入や手

助けといった支援の不足により生じていることも考えられる。一方で、現在入手可能な知識や情報が、必ずしも十分ではないことに起因している可能性も考えられる。つまり育児上の問題に対処する場合に、育児書で提供される知識や情報は有効利用できない可能性である。核家族化や少子化、生活の都市化や共稼ぎ家庭の増加から、具体的な介入や手助けが得られにくい現状を鑑みると、知識や情報の提供による育児支援の可能性を最大限に活かしていく必要性が考えられる。そこで本論では、育児の支援情報の提供について以下の2点を提案する。

第1に、育児に関する相談機関と連携した情報提供である。育児に関わる子どもの発達上の問題は、育児書においても一定程度の情報が掲載されている。但しそこに示されているのは紙面の制約の中、活字によって示される断片的な情報であり、発達上の問題に関する全体的な状態像や包括的な情報は示されていない。このため、子どもの発達に不安を持った育児者は、状態に関する断片的な情報から、子どもの状態と一致する、一致しないといったことを考え一喜一憂することとなる。そして場合によっては、子どもの発達上の問題に関し必要以上の不安を高めていく。さらに、問題を生じさせている原因が明確に特定できないため、対応や処遇を検討することも困難となる。この点も育児者の不安を高めていくことになるだろう。そこで本論では、発達上の問題に限定した上でそれらの問題に関わる詳細な情報の提供を提案する。発達上の問題を扱う理由は、子どもを育てる育児において、その育ちに問題があることは、育児の不安を高める最大の候補に挙げられるからである。なお、情報の提供においては、子どもの発達上の問題を専門的に扱っている機関と連携することで、子どもが示しうる問題を包括的に扱っていく。このことは、原因を正確に理解し、最適な対応や処遇に関する情報の提供を可能とするだろう。

第2に、地域資源に関する情報提供である。既に述べたように、育児は地域の中で行なわれる。従って育児上の問題の対応も、地域の特性を踏まえながら検討していかなければならない。しかしながら、育児書に示されている知識や情報は、地域の気候や地理的条件、社会経済的条件を捨象しやすい(高野, 1982)。つまり、地域の特性を踏まえた施設や制度といった地域資源に関する情報は得られないのである。育児者が、その地域の条件の中で育児支援についてどのような選択肢が存在するのか知ることは、現実的な問題の対処において重要な意義を持つ。そこで本論では、育児を支援する資源に関する地域情報の提供を提案する。

なお、これらの育児情報の提供は、インターネットに代表される電子ネットワークを用いる。既述したように、家族や地域共同体による情報提供の機能は低下している。但し、インターネットに代表される電子ネットワークは近年目覚ましい発展を遂げている。そして電子ネットワークは、画面のデザインを工夫することにより、効率的で理解しやすい情報を提供しうる。従って、電子ネットワークを用いた情報提供は、迅速で容易な情報入手を可能にするだろう。

Ⅱ. 相談機関と連携した育児情報の提供

1) 相談機関との連携

既に論じたように、地域における育児の相談機関と連携し、情報を提供していく。連携する相談機関は仙台市発達相談支援センター（以下、愛称の「アーチル」）である。アーチルは、あらゆる発達障害（脳性まひ等の運動障害、自閉症や学習障害等）や発達上の問題を対象に、相談と地域における生活や療育の支援を行っている。そして、支援を求めている子どもとの「早期出会い」と、乳幼児から成人までの「生涯ケア」の実現を目指している。なお、仙台市におけるアーチルは、子どもに発達上の問題があった場合に、その家族を含め地域での生活を支援していく最大の相談機関とされており、地域から深い信頼と強く期待を受けている。

アーチルにおける主な相談内容は、次のようなものが挙げられる。乳幼児期では、ことばが遅い、運動発達が遅い、マイペースで人との関わりが乏しい等の発達上の問題である。保育所や幼稚園に通う時期では、友達とうまく関われない、集団から外れる、先生の指示に従えない等、集団生活上の問題である。さらに発達上の問題以外でも、学校生活や更生施設における生活について相談を行っている。なお、就園や就学等に関わる各種進路相談や、療育手帳等の福祉制度と関わったサービスも行っている。

このように、アーチルでは生涯を通じた支援を視野に入れながら、乳幼児期からの発達上の問題に関して地域と密着した相談を行っている。

2) 提供する育児情報

育児の支援情報は、一般情報と地域情報の2種類である。一般情報とは、子どもの発達の状態や発達上の問題に関する情報である。ここには、発達上の問題が疑われる子どもの状態像やその原因、具体的な対応に関する情報が掲載されている。地域情報は、アーチルが地域に向けて公開している研修会や勉強会等の情報に加え、仙台市の育児に関する施設や制度についての情報を掲載する。従って、発達上の問題を必要に応じさらに詳しく知るための情報や、育児上の負担を軽減するために利用できる地域の情報が掲載されている。

上記の2種類の情報は、子どもの発達に関する正確な知識を得ると同時に、地域の中で子どもを育てるために利用できる情報を得ることを可能にするだろう。

Ⅲ. 育児情報の提供方法

育児情報の提供には、次のシステムを利用する。現在、「Mother's Open College タウン（以下、MOC タウン）」というオンラインコミュニティが構築されている。MOC タウンとは、電子ネットワークを用いることで物理的な制約を受けずに、地域コミュニティや家族の育児機能を支持するシステムである（熊井・渡部・三石，印刷中）。そしてオンラインコミュニティとは、電子ネットワークにおいて情報を共通の結びつきとしたメンバーが一定時間集まり、社会的交流を行うものである。従って、インターネット等の電子ネットワークを媒介に、育児に関する情報の提供や社会的交流を可能とし、育児者が

有する不安を軽減することを試みている。

さて、MOC タウンには、育児の支援に対し様々な機能を果たすコンテンツが内包されている。現在も、新たな機能を持つコンテンツの付加が検討されており、今後さらに充実していく予定にある。但し、その中核的な機能は 1) 育児や発達・障害に関する情報提供、2) 育児に関する質問を受け付け、インターネット上で専門家が簡単なアドバイスを行う相談の提供である。そして、本論が提案する一般情報と地域情報は、子どもの発達上の問題に対する原因や対応の情報、さらには地域資源を利用した育児支援に関する情報を入手できるコンテンツとして提供する。この支援情報は、MOC タウンに含まれる他のコンテンツと相互補完的に機能することで、さらに充実した育児支援の情報提供を可能とするだろう。

なお、育児情報の提示については、利用者による理解の容易さや操作性を考慮し、視覚的に理解可能で、幾つかの選択肢をボタンで押すことにより、必要な情報を簡単に入手できるようデザインした。

IV. 今後の課題

第1に、電子ネットワークによる知識や情報提供の可能性と限界の検討である。既述したように育児支援には、具体的な介入や援助が必要である。それを踏まえた上で、本論では知識や情報の提供による育児支援の可能性を模索することを提案した。今後は、このような情報提供の利点のみを検討するのではなく、その限界についても検討していく必要があるだろう。そのことが、知識や情報の提供による支援の機能を明確にし、より有効な利用を可能にするだろう。第2に、掲載する情報の精緻化である。現時点では、必要と考えられる情報を推測した掲載がなされる。従って、掲載された情報が、育児を支援するのに必要十分である保障はない。今後、利用者を対象とした調査を行いより確かな情報の提供を行っていく必要があるだろう。

【文 献】

- 早川勝広 1981 育児語と言語獲得 言語生活, 3 (351), 50-56.
- 熊井正之・渡部信一・三石 大 印刷中 育児支援のためのオンラインコミュニティ構築の試み 教育情報学研究
- 小此木啓吾 1986 現代人の心理構造 NHK ブック
- 佐々木保行 1982 産褥期の母親と育児ノイローゼ 佐々木保行・高野 陽・大日向雅美・神馬由貴子・斧沢茂登子(著) 育児ノイローゼ Pp.1-28 有斐閣
- 高野 陽 1982 小児保健からみた育児不安 育児ノイローゼ 佐々木保行・高野 陽・大日向雅美・神馬由貴子・斧沢茂登子(著) Pp.89-129 有斐閣
- 渡部信一・熊井正之・曾根秀昭・比屋根一雄・飯尾 淳・菅井邦明 2002 ネットワークを利用した不登校児・障害児支援システムの開発 日本教育工学雑誌, 26, 11-20.
- 矢野善夫 1991 発達と育児システム 新心理学ライブラリ5 梅本堯夫・大山 正(監修) 発達心理学への招待 人間発達の全体像を探る Pp.96-112 サイエンス社